

インドゾウの直接飼育から準間接飼育への管理方法の移行

○船藤 史, 栗原 幹尚, 古田 洋, 大浦 敦史, 矢口 茜, 岡崎 孝樹

よこはま動物園では、インドゾウ (*Elephas maximus*) の雄個体を準間接飼育で、雌個体を直接飼育で管理していた。しかし、より安全に飼育管理していくため、2022年4月1日より準間接飼育に変更した。その準備段階として、2022年1月よりターゲット棒を利用した誘導方法への変更及び既存の準間接飼育柵での管理試行、3月末より展示場での給餌方法の変更を行った。4月1日には準間接飼育への切り替えに伴い、飼育管理指針と育成カリキュラムも改定した。施設は既存の設備を利用した管理と並行して5月下旬より改修工事を行い、PCウォールを順次設置している。

準間接飼育へ変更した結果、飼育管理の安全性の向上に繋がっている。また、変更前とほぼ同等のトレーニング項目も実施できており、飼育管理の質は維持できていると考えられる。今後の課題としては、新規トレーニング項目や給餌方法を増やし、ゾウの飼育管理の質や精神衛生の向上を図ると共に、PCウォール及び準間接飼育用の柵を施設の全面に設置し、より安全な環境や飼育方法を確立していく。